

厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）分担研究報告書

男性不妊治療のあり方に関する研究

研究協力者 太田 昌一郎 富山医科薬科大学附属病院泌尿器科助手

研究要旨 男性性機能障害のため、正常な性交が行えず、子供に恵まれない患者に対して行われている治療および効果を把握し、今後の治療法を検討するために研究協力施設への書面での調査を行った。今回の集計はシルデナフィル発売以前の集計であり治療法はまちまちであったが、今後はシルデナフィル使用例が大半となるであろう。また、その効果が期待される。さらに、勃起障害におけるカウンセリングの重要性が再認識された

A. 研究目的

男性性機能障害のため、正常な性交が行えず、子供に恵まれない患者に対して行われている治療および効果を把握し、今後の治療法を検討するために研究協力施設への書面での調査を行った。

B. 研究方法

研究協力者間で担当する病因を振り分けたうえで、研究協力者の所属する施設のそれぞれの病因別で検査、治療法などについて検討した。

C. 研究結果

85 例のうち 57 例に治療が行われ、27 例で薬物の投与が施行され、16 例で勃起障害に対して効果をみとめ、1 例では妊娠をみとめた。PGE1 や抗うつ薬が使用されていた。陰圧勃起補助具が 16 例に使用され 12 例で同様の効果をみとめ、1 例では妊娠もみとめた。陰茎弯曲症が原因の 5 例について陰茎形成術が施行され、いずれも効果をみとめたが、妊娠には至らなかった。静脈手術は 4 例に施行され、1 例に効果をみとめたが、妊娠例はなかった。他には陰茎絞扼リングが 4 例に使用されているが、2 例の勃起障害に対する効果のみであった。1 例で精神科による家庭療法が施行され勃起障害に対しては効果をみとめた。一方、28 例はカウンセリングのみであったが、6 例は勃起障害が改善し、1 例で妊娠をみとめた。

D. 考察および結論

男子不妊症の原因としての勃起障害の検討において、今回の集計はシルデナフィル発売以前の集計であり治療法はまちまちであったが、今後はシルデナフィル使用例が大半となるであろう。また、その効果が期待される。さらに、勃起障害におけるカウンセリングの重要性が再認識された。